

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成 18 年 1 月 12 日 (2006.1.12)

【公開番号】特開 2004-172000 (P2004-172000A)

【公開日】平成 16 年 6 月 17 日 (2004.6.17)

【年通号数】公開・登録公報 2004-023

【出願番号】特願 2002-338156 (P2002-338156)

【国際特許分類】

H 0 1 R 13/11 (2006.01)

H 0 1 R 13/115 (2006.01)

【F I】

H 0 1 R 13/11 C

H 0 1 R 13/115 C

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 11 月 16 日 (2005.11.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら上述の従来例において、特に相手側の挿込接続端子が接続部 1 内に斜め方向から挿入される場合などに、挿込接続端子の先端が当接する可動接触片 7 の逆山形の斜面との間の摩擦力が、可動接触片 7 を長手方向に押し縮めるように作用し、可動接触片 7 の斜面の傾斜を増加させる。従って、摩擦力が更に増大し、挿込接続端子の円滑な挿入が困難となり、可動接触片 7 を座屈させる虞れがある。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 2】

上片 1 8 a の基部には取付孔 1 8 d が設けられており、この取付孔 1 8 d には下片 1 8 b の先端の先細の自由端 1 8 e が嵌入可能にされている。また、上片 1 8 a から自由端 1 8 e と反対側の前方に延在された先端部 1 8 f は、内側に円弧状に折曲されてガイド部とされており、常時は自由端 1 8 e は常時はこの先端部 1 8 f の内側に位置している。更に、下片 1 8 b の両側には翼部 1 8 g が突設され、側板 1 5、1 6 に設けられた掛止孔 1 5 a、1 6 a 内に係止するようにされている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 6】

この接続端子においては、特に可動接触片 1 8 の自由端 1 8 e が、図 2 の一点鎖線で示すように、上片 1 8 a の基部の取付孔 1 8 d に嵌合可能とされているため、図 3 に示すように相手側の挿込接続端子の平刃状接続端 T が可動接触片 1 8 の板ばね状の接点部 1 8 c

と底板 14 の接触部 14 a の間に挿入されて嵌合する際に、挿込接続端子から可動接触片 18 を押し上げ力が加わると、自由端 18 e は取付孔 18 d の間に嵌入され、自由端 18 e の位置が固定され、下片 17 b は前後方向に移動することはない。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1】

